

## 学位論文審査結果の要旨

博士課程 ①・乙	第440号	氏名	新川 慶明
審査委員		主査氏名	落合 秀彦
		副査氏名	中村 都英
		副査氏名	得口 翔
[論文題名] Usefulness of 2D fusion of postmortem CT and antemortem chest radiography studies for human identification			
[要旨] 法医学領域において、個人の特特定は大変重要な問題である。これまでDNA鑑定や指紋照合、歯科X線撮影写真、顔面の構造などが個人の特特定に用いられることが多いが、生前にDNAや指紋の採取はされていないことが多い。また、その他にも最近では副鼻腔や頭蓋縫合の形状などの比較による個人の特特定も試みられているが、最大の問題は、生前になかなかそれらのX線撮影を受けていないことが多いということである。その一方で、健康診断などにより生前に胸部単純X線撮影を受けている割合は非常に高い。著者らはこの点に着目し、生前の胸部単純X線撮影と死後の胸部CT検査の再構成画像を癒合した画像を用いて、あらかじめ計測点を決めておき、この癒合画像における各々の元画像における計測点の一致率が個人の特特定もしくは絞り込みに有用かどうかを検討した。その結果、胸部の軟部組織に4点もしくは5点、また骨に計測点を置いた場合、本方法は個人の特特定もしくは絞り込みに有用である可能性を見出した。本研究においては、方法や結果の分析、そして結論に至る過程も適切であり、結果に対しても適切な考察がなされている。本論文は、個人の特特定方法という問題において新たな知見を与えるものであり、博士論文に値すると思われる。			